

# マツゲン連覇 史上5チーム目



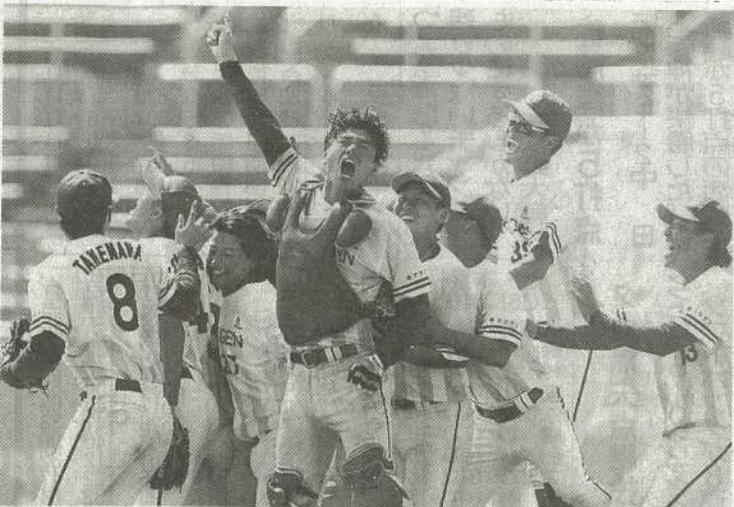
降し、2大会連続7回  
目の優勝を果たした。  
マツゲン箕島は10月28  
日に京セラドーム大阪  
で開幕する日本選手権  
の出場権を得た。日本  
選手権の出場は2大会  
連続8回目。

全日本クラブ野球選

社会人野球の第49回  
全日本クラブ野球選手  
権大会(毎日新聞社・  
日本野球連盟主催)は  
16日、愛媛・坊っちゃんスタジアムで決勝が  
あり、マツゲン箕島(和  
歌山)が大和高田クラ  
ブ(奈良)を5-1で

▽決勝  
マツゲン箕島  
0001100025  
0000101013  
大和高田クラブ

(○)松村、近藤、中田、坂本、奥田、湯浅(大西、松林、楠本、深尾)  
マツゲン箕島は2大会連続7回目



「マツゲン箕島」大和高田クラブ「優勝し喜ぶ」マツゲン箕島の選手たち「中川祐」撮影

手権の連覇は第32回大会(2007年)、第33回大会(08年)の茨城ゴールデンゴース以来16大会ぶりで、史上5チーム目(6回目)。

大会ぶりだった。マツゲン箕島は12安打を放って競り勝った。三回に杉浦玲史の犠飛で先制し、四、五回に1点ずつ加えた。1点リードの九回は竹中夢翔、松本佳高の連続適時打で2点を奪って突き放した。先発の松村亮汰は5回1失

点。小刻みな継投で逃げ切った。大和高田クラブは中盤から追い上げ、九回は押し出し死球で2点差に迫ったが、なお2死満塁である2本が出なかった。表彰選手は次の通り。  
最高殊勲選手賞 松村亮汰投手(マツゲン箕島)▽敢闘賞 西浦太智内野手(大和高田クラブ)▽首位打者賞 西浦太智内野手(12打数6安打、打率5割)

## 仕事仲間に恩返し

外角低めの変化球に食らいついた。3-2の九回2死一、三塁、マツゲン箕島の5番・竹中夢翔がはじき返した打球は中前へ。三塁走者を迎え入れ、竹中は両手を高々と突き上げた。

「意識はセンター返し。体を開かないことだけ」と竹中。不調で打順を下げたが、本来は4番を担う好打者だ。腕の振りが鋭い大和高田クラブの左腕・松林勇志に対し、直球との面ならみではなく、割り切った変化球に重きを置いたことが奏功した。チームは3-0からじわじわと追い上げられ、攻撃でも五回途中から救援した松林に抑えられていた

だけに、優勝を大きくたぐり寄せる適時打だった。恩返しの一振りだ。チームにはマネジャー兼任を含めて16人の投手がいて、実戦形式の打撃練習に次々と登板する。最速150キロ超の投手も複数擁し、打者たちは日ごろから対応力を磨いてきた。生きた球を毎日のように見られるのはすごく「ラス」と竹中は感謝する。チームは計り安打。うち10本が単打だが、難しい球でもきっちり捉える技術が光った。

チームは和歌山県などで展開するスパー「松源」の支援を受け、選手は主に店舗で業務をこなす。野球が好き

滋賀・八幡商、専大出身の24歳の竹中もその一人。総菜を担当し、普段は店舗内の調理場で弁当のおかずを作っている。「仕事も野球も全力。両方を頑張ることで職場の人にも応援してくれるはず。野球で店舗を空けているので、結果で恩返ししたかった」と話した。

「野球王国」として名高い愛媛県で初開催の大会。仕事と野球の「二刀流」に取り組み選手たちが鍛錬の成果を披露し、クラブ野球の新たな歴史に「連覇」で彩りを添えた。

【石川裕士】